この人に聞く

競争力高め収益基盤確立

前田道路 取締役兼常務執行役員 技術本部長兼CSR・環境担当 守安 弘周（もりやす ひろちか）氏

◆研究開発の方向性は

技術力の向上と支店などとの連携強化を目的に4月1日に設立した技術本部。脱炭素関連の研究開発や補修材をはじめ既存技術の高度化などに注力し、変化する社会や顧客のニーズに対応していく。優れた技術と人材で競争力を高め「新たな収益基盤と未来への投資を確立する」ことを使命と捉える。

――就任の抱負を。

「適正な利益を得るには競争力が不可欠と言える。技術による高い競争力で利益を生み出し、従業員の満足度向上や将来への投資につなげる好循環を作っていきたい。インフラ整備を担う会社はどのような時代が来てもなくならないが、なくては困る唯一無二の会社を目指していく」

――本部設置の狙いは。

「技術研究所と技術部を統括管理し、各事業本部と並列の本部に昇格させた。支店や他事業部などとの連携強化が狙いだ。着任後、支店や現場へ積極的に足を運んでいる。開発した新技術や製品を浸透させると同時に、現場の声に耳を傾け課題やニーズに応えていきたい」

――技術開発の方向性は。

「脱炭素がキーワードになる。合材の製造過程で二酸化炭素（CO_2）排出量を減らした低炭素合材の販売促進に加え、プラントへの水素燃料実用化に向けた検討、CO_2をアスファルト路盤材に固定する研究開発などに注力する」

「水で固まる常温アスファルト補修材のマイルドパッチは舗装補修工事の在り方を変えたと自負している。マイルドパッチで培った技術を応用して開発したのが、グースアスファルト舗装補修材のマイルドグースだ。老朽化に伴う橋梁架け替えまでの応急的補修に最適だと考えている。自治体などへ積極的に提案していく」

「維持管理市場の拡大を見据え、業界に先駆け取り組んでいる次世代道路包括管理システムの開発、実装にも力を入れる」

――生産性向上の取り組みは。

「ICTを活用した現場の生産性向上に努めている。建設機械にレーザースキャナーを搭載し測量情報をリアルタイムに把握している。出来形管理が容易になり現場への立ち入りが減ったことで事故リスクも低減した。ウェザーニューズと開発した舗装指数を盛り込んだ気象アプリも現場へ展開し、計画的な施工と品質向上、働き方改革の促進に貢献したい」

――人材の確保や育成は喫緊の課題だ。

「会社の持続的成長の源泉が人材だ。本部では道路をコミュニケーションツールに活用できないかなど将来の道路の在り方も模索している。単なる道路整備にとどまらず、夢を抱く楽しい会社だと思ってもらえる仕掛け作りも本部の役割と思う。夢を発信し社員のやりがいと人材確保につなげたい」。

（4月1日就任）